

1. 博物館へようこそ

ようこそ近つ飛鳥博物館へおいで下さいました。

大阪には、日本の古墳を代表する「古市（ふるいち）古墳群」の「応神天皇陵（おうじんてんのうりょう）古墳」や、「百舌鳥（もず）古墳群」の「仁徳天皇陵（にんとくてんのうりょう）古墳」など、5世紀頃の巨大な前方後円墳が数多く作られています。

近つ飛鳥博物館の周辺にも、「推古天皇陵（すいこてんのうりょう）古墳」や「聖徳太子墓」などの7世紀の政治の中心にいた人びとの古墳や、近つ飛鳥風土記の丘の一須賀（いちすか）古墳群などの古墳が造営されています。

近つ飛鳥博物館は、日本有数の古墳が集中する大阪の古墳時代の資料を中心に、日本の古代国家がどのようにして成立したのかを考えていただく博物館です。

また、古墳時代の5世紀には、朝鮮半島などから多くの渡来人（とらいじん）が海を渡ってやって来ました。渡来人により伝えられた先進的な技術や高度な文化は、日本文化の血となり肉となって、今日の日本を形作ってきたのです。

この近つ飛鳥の地は、大和の飛鳥と同様に渡来人が多く住んだ地域として知られています。近つ飛鳥風土記の丘にある一須賀古墳群からは、渡来人とのかかわりを示すさまざまな遺物が出土しており、この博物館で展示しています。

近つ飛鳥博物館は、東アジアとの深い結びつきの中ではじめて成立した日本の古代文化を考えてもらうための博物館でもあります。